

緑内障

てもらった方が
いいでしょう
う」
こう言うの

40歳を越えた20人に1
人がかかっているといわ
れる緑内障。成人男子の
中途失明の原因として
は、加齢黄斑変性症(14
・7%)や糖尿病性網膜
症(19・1%)を抑えて
トップ(21・5%)とい
うから衝撃的だ。

「一般的な緑内障は、か
なり進行するまで自覚症
状がまったく認められな
いケースがほとんどで
す。40歳を過ぎたら、年
に一度、誕生日にでも光
干渉層計(OCT)で
視神経の状態などを調べ

は、緑内障の早期発見・
早期治療に取り組み辛英
世院長だ。

緑内障は、眼球の内圧
(眼圧)の上昇により視
神経(見たものを網膜か
ら脳に伝える神経)が圧
迫され、モノが見える範
囲(視野)が欠けていっ
て失明に至る、目の成人
病”である。

「眼球の中の毛様
体から分泌さ

辛英世院長

大口眼科クリニック
(神奈川県横浜市)



れる房水という液体の循
環やスムーズな排出が妨
げられることで眼圧の上
昇を招きます」

問題は、眼圧に対する

「国内の緑内障の大半、
7〜8割を占めます。
『眼圧が正常で視力もよ
い』からといって安心す
るのは禁物です」

すでに緑内障を発症さ
せているのに、視野検査
で異常が認められないケ
ースが多いことも厄介な
点だ。

網膜上に広がる視神経
線維の光を感じる機能を
測定、視野障害の有無や
程度を調べる視野検査は
視神経線維の欠損箇所が
あまりにも小さいと見逃
しやす。視野検査の限
界といえるだろう。

「しかし、緑内障の治療
を早期にスタートさせ、
その進行を止めて失明を
予防するには、視神経線
維の欠損箇所が小さい早
期に発見することが大切
なのです」

「早期発見・治療なら失明を免れられる
ク」がOCTをはじめ、
充実した検査機器を取り
そろえているのは、「目
の病気ならば絶対見逃さ
ない」という辛院長の決
意の表れにほかならな
い。

緑内障は、末期まで視
力は維持されることが多
いものの、放置したら確
実に進行する。一度死滅
した視神経線維は元に戻
らないから、失明への道
を駆け落ちていくしかな
いのだ。中高年にとって
辛院長のアドバイスはま
さに至言である。

「医療ジャーナリスト・
松沢実」

水曜掲載



40歳過ぎたら光干渉断層計による検査を!

「正常眼圧緑内障」な
どは適切な点眼治療薬に
より、眼圧を治療前と比
べて20〜30%下げること
で、緑内障の進行を止め
たり、その進行速度を遅
くしたりできることが科
学的に立証されています
松沢実」

水曜掲載